

(公財)日本体操協会 令和3年度第2回評議員会議事録

1. 日時 2022年3月27日(日) 14時00分 ~ 14時55分

2. 場所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE3F 会議室3
会場集合およびリモート(zoom 使用)による併用会議
一堂に会するのと同等に意見表明ができることを確認した。

3. 出席者

<評議員>

出席:16名 大島斎礼、岡村輝一、瀧澤康二、長谷川輝紀、坂上誠、鷹西美佳
田中和子、慶野峰晴、大橋英記、松井保憲、渡邊一郎、望月克己、
山田正夫、原康之、岡部洋明、知念義雄、

欠席:5名 川上新一、谷口 裕代、塚原千恵子、長澤稔子、林 直樹

<理事・監事>

出席:7名 藤田直志(会長)、具志堅幸司(副会長)、竹内輝明(副会長)、
長谷川洋子(副会長)、山本宜史(専務理事)、遠藤幸一(常務理事)、
岩瀬史子(常務理事)

監事:2名 高橋史安(監事)、小河原慶太(監事)

<事務局>

出席:2名 守永直人事務局長、渡邊 榮事務局統括

4. 資料の確認

資料「2021年度第2回評議員会資料」
「2022年度予算について」

審議事項

第1号議案 役員の定年に関する規程改定について/総務委員会

報告事項

第1号報告 2022年度予算/事務局

第2号報告 速見コーチ資格復活について/コンプライアンス委員会

第3号報告 2021世界体操・新体操選手権北九州大会/大会組織委員会

5. 権限審査

本協定会款第24条にもとづき評議員会を構成する評議員は21名、
本日は川上新一さん、谷口 裕代さん、塚原 千恵子さん、長澤 稔子さん、林 直樹さんの
5名が欠席、出席者数は16名、過半数は11名ですので本会議は定足数を満たしている

ことをご報告申し上げます。

6. 藤田会長ご挨拶

私が就任してから新型コロナウイルスが第4から第6波の大きな波に襲われながらも、東京オリンピック、世界選手権北九州大会と2つビックイベントを日本で開催することができた。コロナ禍においても日本で開催できたことは世界体操界に貢献できたのではないかと思う。一方ウクライナではロシアによる軍事侵攻が行われており、日本体操協会としても国際体操連盟などと協力し、被平和が戻るための一助にしたいと思う。

7. 議長選出

定款第4章第16条の定めにより、評議員会議長は、評議員の中から選出すると定められており、瀧澤康二評議員が議長に選出された。

8. 議事録署名人

定款第5章第26条に基づき、議長の瀧澤康二並びに鷹西美佳評議員及び田中和子評議員の3名を指名し、議場に諮り、全員異議なく承認された。

9. 審議事項

第1号議案 役員の定年に関する規程改定について
議長の指名により、遠藤総務委員長は説明を行った。

本規程改定は評議員の決議によって改廃することから本会議にて提案をおこなう。

今回は、2021年10月スポーツ団体ガバナンスコードの適合性審査により指摘をうけて、役員任期を明確にすべく以下のように改定対応する。

(目的)
第1条 公益財団法人日本体操協会（以下、「本会」という）の定款第27条に基づく役員の就任時における年齢制限並びに任期を次のように定める。
(会長の任期)
第2条 会長の任期は、1期2年とし3-4期（ 6-8 年）までとする。 特別の事情あるときは、1期延長することができる。 延長した任期の満了時、特別の事情があるときは、わらに1期（2年）延長することができ、以後同様とする。
(役員の定年と任期)
第3条 会長を除く 役員の就任時における年齢は、70歳未満とする。ただし、改選時まで役員として在任していたものについては、1期2年を限度として再任を妨げない。 なお、理事の在任期間は最長で連続5期（10年）までとし、再任期間は1期（2年）を開けるものとする。再任回数は最大3回までとする。 また、継続的な任務遂行のため、会長職については就任時の年齢を問わずに選任することができる。

議長は、質問・意見の有無を議場に諮り、特に意見はなく、第1号議案は、承認・可決された。その他、特に議題はなく、報告事項に移る。

10. 報告事項

第1号報告 2022年度予算について

議長の指名により守永事務局長より以下の説明を行った。

<2022年度予算の基本方針>

限られた予算の中で一丸となって事業を推進し、将来に向けた事務局の抜本的な体制整備・改革に取り組む。各事業の見直しや創意工夫により限られた予算枠の中で最大限の効果を発揮したい。

<予算について>

2022年度は将来に向けた事務局の抜本的な体制整備・改革に取り組み、改革を行い2023年度以降各分野において増収計画を実現。

2022年度の収入は 14 億 561 万円。

2021 年は世界選手権の予算 18 億円が入っていたので 2021 年度の約45%の減収。

【世界選手権抜いたもので計算】

スポンサー収入は 5940 万円の減少見込み

JOC 助成金などで 1 億 4630 万を概算要求

約 9000 万円の増収としている。

<支出について>

2022年度の支出は 12 億 8095 万

2021 年度は同じく世界選手権で 18 億円の予算があったので約 44%の減少

【世界選手権抜いたもので計算】

約 2 億円の増加

—増加の主な原因—

体操、新体操、トランポリンについて

コロナ明けを想定してエントリーできる大会はフルエントリーを想定している。(強化本部)

費用増化、パークール世界選手権、100 周年記念委員会等新規事業が出たことによる。

<管理費について>

将来の増収計画のため人材採用を進め、2 億 2871 万円の支出。

14 億 561 万円の収入

12 億 8095 万と管理費 2 億 2871 万円を合わせた 15 億 966 万円の支出を引いて

マイナス 1 億 404 万円の赤字で計上。

<公益法人の特別会計>

特定の事業などに対して積み立てを行う、特定費用準備資金という制度

令和3年度特定費用準備資金を2件積んでいる。

- ① 令和4年度パルクール世界選手権の開催費用4000万円
- ② オリンピック強化費用 8000万円

計1億2000万円積み立てている。

令和4年に開催されるパルクール世界選手権に合わせて予定通り積み立て金を取り崩すこと、予算執行に関して精査しながら実施すること、スポンサー等収入増を図ることにより、令和4年度収支を0に近づけるよう執行していく。

<特記事項>

年間予算はマイナス予算となりますが、特定費用準備資金及び経費削減、収入増を目指し、正味財産は減少させないように執行していく。

—管理費の増加について—

人員を増加致しますが、今後見直しが出来なかった経費削減や、登録料の増加やスポンサー収入の増加などの収入増に向け労力を向けていく。

第2号報告 速見コーチ資格復活について

議長の名指により具志堅副会長よりご報告

埼玉県体操協会より良い指導をしており、行き過ぎた指導をする事は無いだろうとの事で二度と起こさないよう面談を重ね体制を作り本人の勉強、スキルアップの講習会を年3回以上受講、指導していくということで解除の運びとなった。

鷹西 : 指導というのはいいと思うがパワハラは受けた側が訴えてくる話なので指導を受ける側の声を今後どう救い上げるのか？

具志堅: 受けた側は訴えるということはないとのこと。

継続して指導してほしいとのことだったのでそれ以上踏み込んでいない。

何かあった場合は受け皿を用意している。

藤田 : 本件については埼玉県体操協会の代表者に面談をしていただき話していただきました。私自身会長として責任をもって判断した。体操協会としてパワハラあるいはコンプライアンスについては協会として重要に取り扱わなければいけないことだと認識している。

今後、選手・コーチを守るという意味で各協会の皆様と協力しながら体制を作っていく。

山田 : 戻って申し訳ないが予算の「特定費用準備資金」がよく理解できない。

(令和4年度パルクール世界選手権の開催費用4000万円)

守永 : 2021年3月に広島で開催予定だったが実施できなかった分になる。

先にスポンサー収入などがあったので来年の大会で使用する。

前受けでもらっていた分が戻るので実質負担額は6000万円になる。

山田 : パルクールは体操協会としてどのように広めていくのか聞きたい。

- 山本 : パルクール委員会を設け、4月からガイドラインを設けた。
各都道府県と協力しながら日本体操協会のパルクール委員会が主導で普及していくという形がようやく出来てきた。
- 山田 : またの機会にゆっくり聞かせていただきたい。
最後になるが、日本体操協会の世界へのコメント配信(世界の平和を願う)協会 HP に掲載されているものが TOP に表記できるようにした方が良いのではないのでしょうか。
- 藤田 : ご指摘の通り TOP ページに残すようにしたい。
現在、ウクライナ体操協会とも逐一連絡を取り現地への皆さんへの励まし、応援を続けているので TPO ページへ表記していきたいと思う。

- 具志堅 : 最初の話に戻ります。
3年経った今、我慢するという感覚ではなく選手とともに作り上げていくという感覚がある。尚且つ誓約書には3点記入がある。
- ① 埼玉県体操協会へ自身の活動及び近況報告を3年間毎月行う。
 - ② 埼玉県体操協会との定期的な面談に協力し報告を行う。
 - ③ 年3~4回、自身のコーチングへのスキルアップをするための講習会に参加する。
- 以上の誓約書を守っていただくことを条件に解除をさせていただいた。

第3号報告 2021世界体操・新体操選手権北九州大会 議長の指名により守永事務局長より報告

第50回世界体操競技選手権を2021年10月18日から24日まで
北九州市立総合体育館において開催。

第38回世界新体操選手権を2021年10月27日から31日かけて北九州市
西日本総合展示場にて開催。

SDGs 持続可能な開発目標 を掲げ、北九州市と共同し SDGsと
女性フォーラムやフレイル運動などの ジェンダー平等、フレイル対策を実施。

<参加者の声>

- ・一生に一度あるかないかの体験だった
- ・努力し続けることが大切だと改めて実感できた
- ・自分の生まれたまちにすごい選手が来てくれて、嬉しかった。

◎日本は世界的に見てジェンダー平等について遅れていると言われるが具体的どこが遅れているか?改善のためには何をしたらいいのか?などの質問が出た。

今大会が大会だけでなく、社会に向け価値のある大会であったことが示せたかと思う。

<PR>

経済効果として、全国で80億円ほど。北九州市内でも40億円ほどの効果が出た。
またパブリシティ効果としても、446億円分の効果があった。

<今大会のコロナ対策について>

今回海外選手を受け入れるために、数多くの対策を行った。

- ・入国前健康観察
- ・入国前 PCR 検査
- ・一般人との導線隔離
- ・専用座席による東京—九州間の移動
- ・専用車両によるホテル—体育館の移動
- ・定期的な PCR 検査
- ・外出制限
- ・医療機関との連携

選手たちの協力のもと多くの対策を行った結果、1216名の入国者のうち
検査陽性者は3名。

比率にして0.25とクラスターを発生させることなく、大会を実施できた。

国のワクチン検査パッケージ技術実証を利用し、満席での開催を目指し、
決勝日など満席での開催ができ、観客においても感染者0名での実施となった。

結果 体操では16527名 新体操で10138名の多くの観客の中で開催。

<大会決済> 渡邊榮財務担当より説明。

令和3年度の会計について、監事 小島さん、高橋さんの承認を得ております。
今回の特徴はコロナ関連費用が大幅に増えている。

世界体操競技選手権大会 北九州大会

<収入の部>

予算:1,150,576,980

実績:1,283,366,541

差額: 132,789,561

◎POINT

北九州市、福岡県の多大なるご貢献と協賛金、入場料増収による負担金減額。

<支出の部>

予算:1,150,576,980

実績:1,283,366,540

差額: 132,789,561

◎POINT

コロナによる旅費、移動費、検査キット等が大きな支出。

世界新体操競技選手権大会 北九州大会

<収入の部>

予算:843,944,090

実績:984,198,882

差額:140,254,792

◎POINT

北九州市、福岡県の多大なるご貢献と協賛金、入場料増収による負担金減額。

<支出の部>

予算:843,944,090

実績:984,198,882

差額:140,254,792

◎POINT

コロナによる旅費、移動費、検査キット等が大きな支出。

以上、世界選手権の報告でした。

議長 以上で予定している議事は全て終了いたしました。

その他、事務局としては特段ございません。皆様から何かございますでしょうか。

その他、特に無いようですので、

これをもちまして2021年度「第2回評議会」を終了いたします。

議長は、すべての議案の終了を確認し、14時55分閉会を宣言した。

令和4年3月27日

議長 瀧澤 康二

議事録署名人 鷹西 美佳

議事録署名人 田中 和子